

農匠ナビ1000技術展&シンポジウム2018inつくば

世界視点と農家目線で考えるわが国の稲作経営の展望

開催要領

1 目的

「日本再興戦略」（平成25年6月に閣議決定）では、今後10年間で全農地面積の8割を担い手に集約し、米の生産コストを現状の全国平均約1万6千円/60kgから4割削減することが目標として設定された。こうした目標を実現するため、生産コスト低減に向けた具体的な取組みとして、大規模経営に適した省力栽培技術や品種の導入、ICTを活用した作業管理、及び肥料、農薬等生産資材費の低減に向けた様々な取組みが行われています。

農匠1000コンソーシアムでは、先進的大規模稲作農業生産法人4社、大学、農機メーカー、IT企業、国公立試験研究機関が参画して、平成26～27年度に大規模実証研究プロジェクト（農匠ナビ1000※）を実施しました。その研究成果を取りまとめた、農匠稲作経営技術パッケージ（水田センサ、IT農機、ドローン、流込施肥、高密度育苗、直播等を組み合わせた技術体系）として提示し、その成果を取りまとめた書籍『TPP時代の稲作経営革新とスマート農業—営農技術パッケージとICT活用—』（養賢堂、2016年）の刊行も行っています。

その後、平成28年からは、全国の多様な地域・稲作経営において農匠ナビ1000の取組みを拡大し、生産コスト低減・収量向上・省力化の有効性・効果を実証する課題に取り組んでいます。新たな農匠ナビ1000プロジェクトでは、導入可能な作付体系や栽培技術が、地域や経営規模によって異なることから、協力機関として参画頂いている全国農業協同組合連合会と連携協力して、地域特性や経営属性を考慮しながら、農匠経営技術パッケージの全国的な普及を目指しています。

今回の技術展では農匠稲作経営技術パッケージの要素技術を幅広く展示・紹介します。さらに、国際熱帯農業研究センターCIATの協力も得て、「世界視点と農家目線で考えるわが国の稲作経営の展望」と題してシンポジウムを開催します。世界視点と農家目線でわが国の稲作経営の展望について、参加される皆様と共に考えていきたいと思っております。

※旧・農匠ナビ1000研究コンソーシアム（研究期間：H26～H27年度）

代表機関：国立大学法人九州大学（研究代表者：九州大学大学院農学研究院教授 南石晃明）

共同研究機関：(有)フクハラファーム、(有)横田農場、(株)ぶった農産、(株)AGL、ヤンマー(株)、ソリマチ(株)、滋賀県農業技術振興センター、石川県農林総合研究センター、茨城県農業総合センター、(国)東京農工大学、(研)農研機構(中央農研、九州沖縄農研)

2 主催：農匠ナビ1000（次世代大規模稲作経営革新研究会、研究期間：H28～H30年度）

代表機関：(国)九州大学（研究代表者：九州大学大学院農学研究院教授 南石晃明）

共同研究機関：茨城県(農業総合センター農業研究所、県南農林事務所、県西農林事務所)、

福岡県農林業総合試験場、農匠ナビ(株)、(国)東京農工大学、(研)農研機構農業技術革新工学研究センター

共催：全国農業協同組合連合会

後援：公益社団法人日本農業法人協会、全国稲作経営者会議、茨城県稲作経営者会議、茨城県農業法人協会、茨城県農業経営士協会、茨城県青年農業士連絡協議会、茨城県認定農業者協議会、農業情報学会、日本農業普及学会、JST-JICA SATREPS プロジェクト「コロンビア稲作」（略称）

農匠ナビ1000プロジェクトは、農林水産省予算により国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構生物系特定産業技術研究支援センターが実施する「革新的技術開発・緊急展開事業(うち地域戦略プロジェクト)」の一環である。公式Webサイト（「農匠ナビ」で検索）：<http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/lab/keiei/NoshoNavi/NoshoNavi1000/>

3 日時 平成30年8月7日（火）

（1）技術展：10:00～12:00、（2）シンポジウム：13:00～17:00

※ 昼食は各自でお願いします。（会場周辺の飲食店は下記のサイト等を参考にして下さい。）

「つくばセンター地区活性化協議会 グルメマップ」 <http://www.tsukucen.net/>

4 場所 つくば国際会議場・多目的ホール（茨城県つくば市竹園 2-20-3、TX つくば駅から徒歩 10 分）

アクセス：<https://www.epochal.or.jp/access/>

※ 会場には無料駐車場はございませんので、周辺の有料駐車場を自己負担でご利用下さい。

5 定員 150名 【どなたでも無料で参加できます。先着順とし定員に達し次第、締め切ります】

6 内容

（1）農匠技術展 10:00～12:00（各機関ブースで随時説明）

A: 農匠ナビ1000 プロジェクト研究成果

茨城県、福岡県、農匠ナビ(株)、農研機構、東京農工大、九州大学

B: 農匠ナビ1000 プロジェクトと協力連携している機関の技術・サービス等

ソリマチ(株)、ヤンマーアグリ(株)、JA 三井リース(株)、積水化学工業(株)、富士通(株)（予定）

（2）農匠シンポジウム 13:00～17:00

シンポジウムテーマ：世界視点と農家目線で考えるわが国の稲作経営の展望

※講演時間には簡単な質問や交代の時間を含みます。

座長：九州大学大学院農学研究院助教 長命洋佑

開会挨拶（13:00～13:10）

世界視点からみた農匠ナビ1000 研究プロジェクトの成果（13:10～13:50）

九州大学大学院農学研究院教授 南石晃明

稲作経営者からみたイタリア、アメリカ、コロンビアの稲作（13:50～14:10）

農匠ナビ(株)代表取締役社長、横田農場代表取締役社長 横田修一

中南米における稲作研究の最新動向（14:10～14:30）

国際熱帯農業センターCIAT 主任研究員 石谷学

コロンビア稲作の現状と SATREPS プロジェクトの取組み（14:30～15:10）

東京大学大学院農学生命科学研究科 特任研究員 小川諭志

（国際熱帯農業センターCIAT アソシエート・メンバ、JICA 専門家）

（休憩 15 時 10 分～15 時 20 分）

茨城県における省力低コスト高収量生産技術の実証と実践（15:20～16:00）

茨城県農業総合センター農業研究所 主任研究員 森 拓也

総合質疑（16:00～16:50）

閉会挨拶（16:50～16:55）

8 申込み方法

申込期限：平成30年7月13日（金）

別紙申込書にて、下記へお申し込みください。

茨城県農業総合センター農業研究所【担当】森、清水、田中、横須賀

Eメール：ta.mori@pref.ibaraki.lg.jp

ファックス：029-239-7306

（問合限定：電話番号：029-239-7212、平日9～17時のみ）

（以上）